

沿岸定線観測速報 ちば (2019年6月)

千葉丸：6月1～5日

千葉県水産総合研究センター

千葉県農林水産技術会議

令和元年6月25日

黒潮は、犬吠埼沖で大きく離岸して北東に流れていました (図2)。
 水温は、銚子・九十九里はやや低め、外房は平年並みでした (表1)。

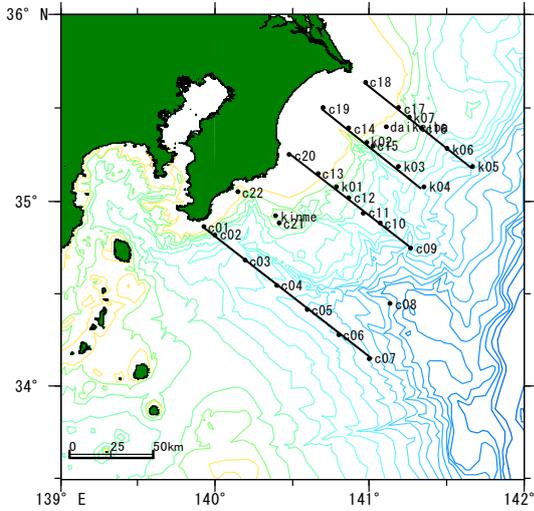


図1 調査点 (K1は欠測)

線は北から犬吠埼, 九十九里, 太東岬, 野島埼ライン

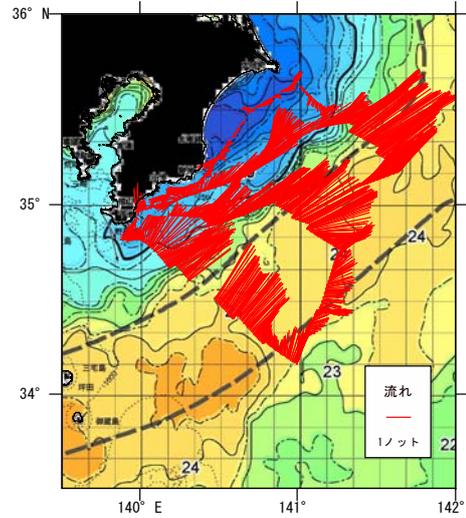
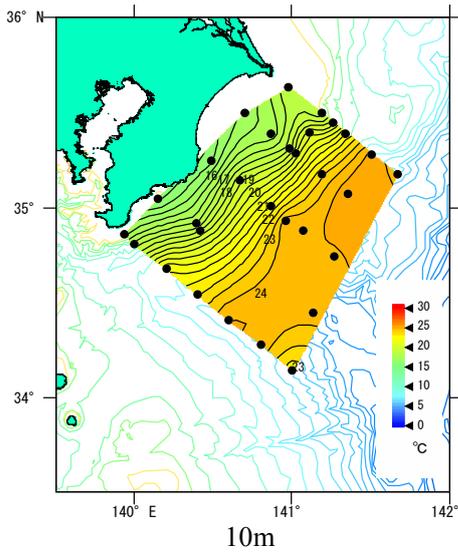
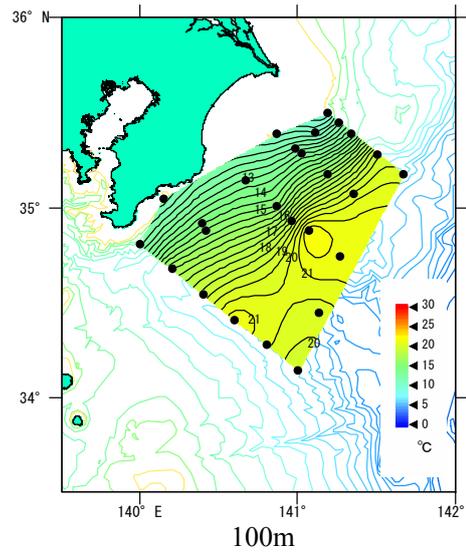


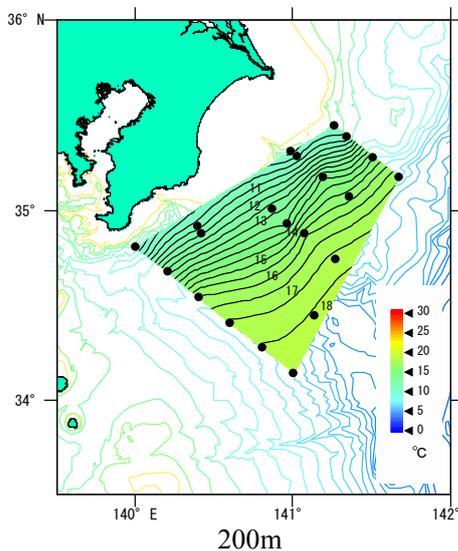
図2 観測時の海況



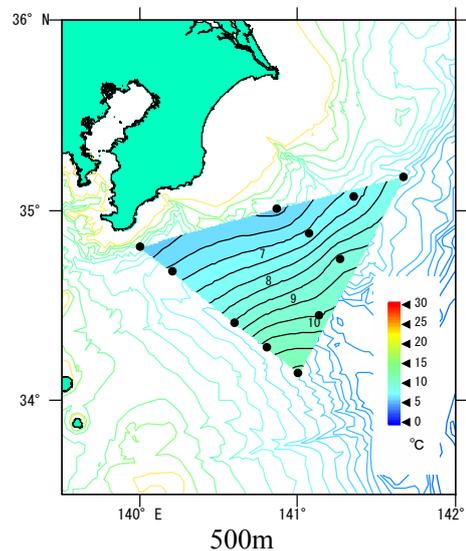
10m



100m



200m



500m

図3 水深別の水温分布

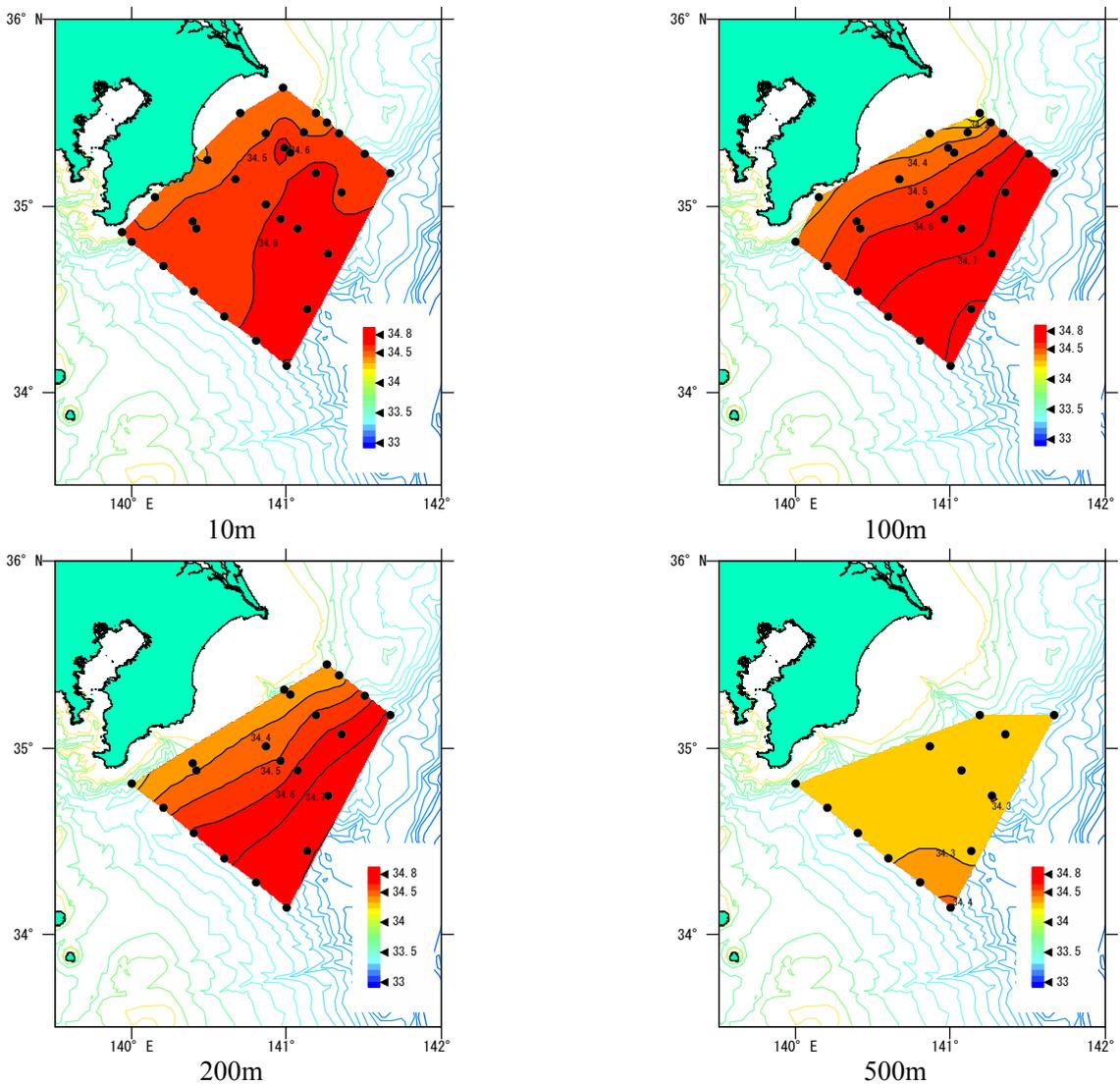


図4 水深別の塩分分布

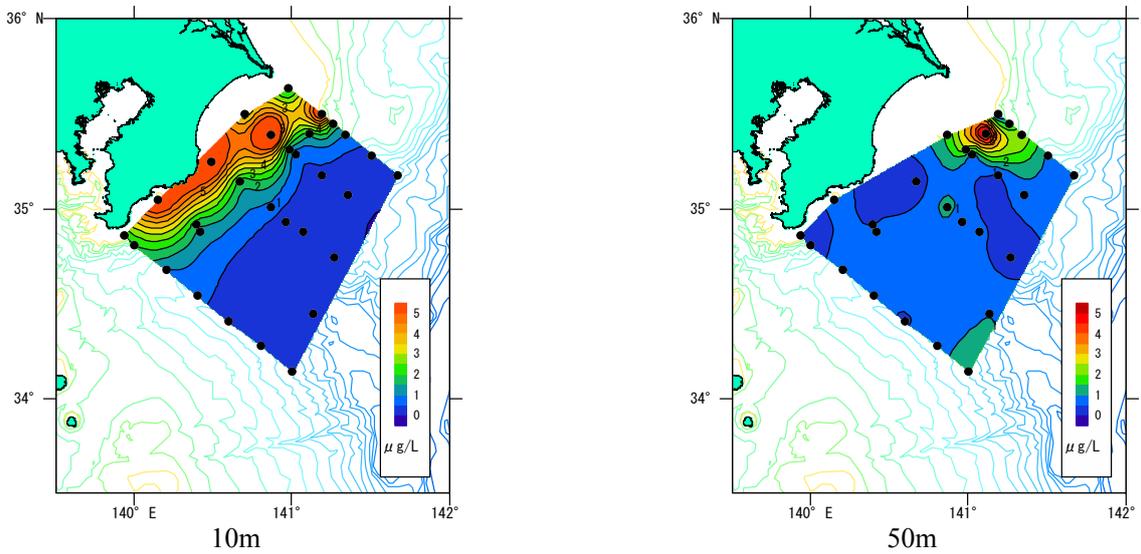


図5 水深別のクロロフィル分布 (単位: $\mu\text{g/L}$)

海面水温は、銚子・九十九里沿岸では16~18℃と冷たく、その沖の水温23℃以上の海域との間に水温フロントが形成されていました(図3)。

犬吠埼ラインでは、陸棚斜面上に低温、低塩分の水塊が見られました(図6, 7)。この低温、低塩分層では酸素濃度が高かったため、先月同様、親潮系冷水が沈降して形成された可能性があります。

クロロフィルは、沿岸部のごく表層(水深10m)で非常に多く、最大で7.7 $\mu\text{g/L}$ に達していました(図5)。銚子沖台形場では水深50m以深で去年より大幅に水温が低下していました(図8)。

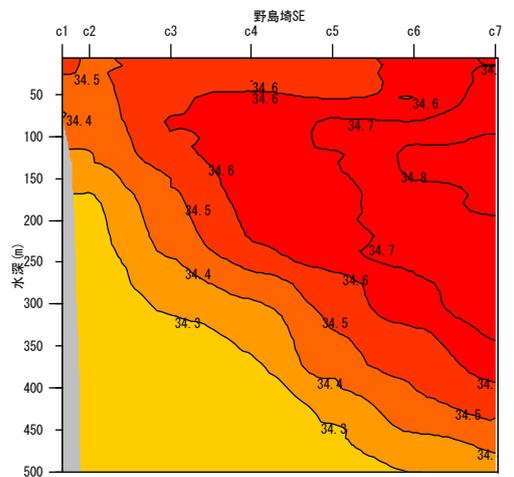
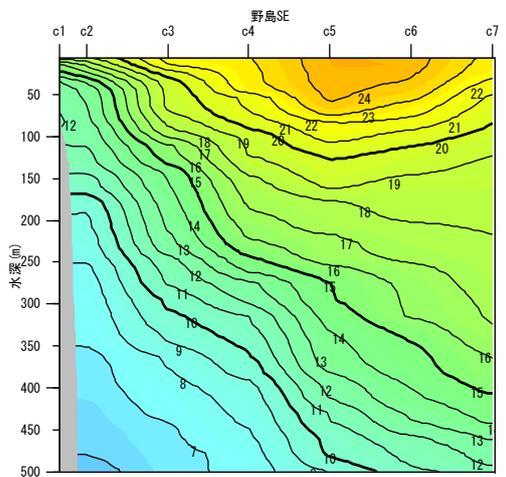
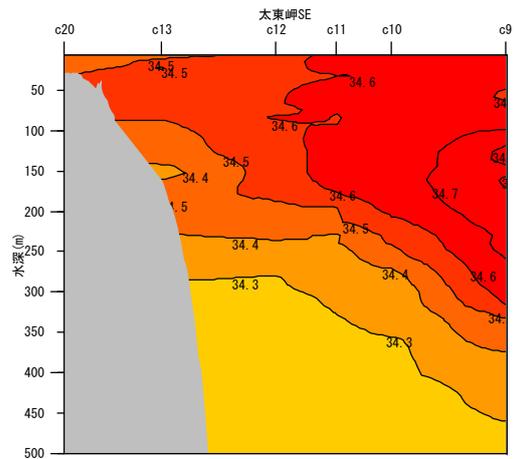
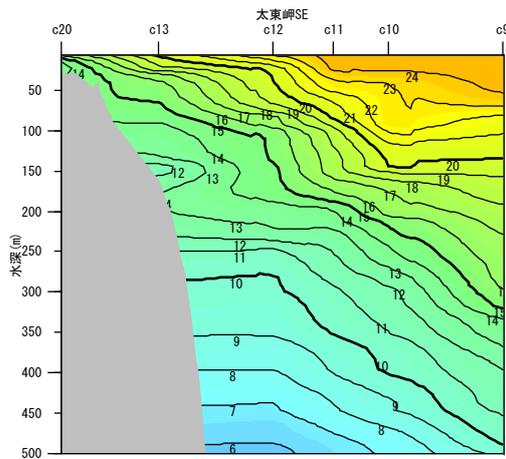
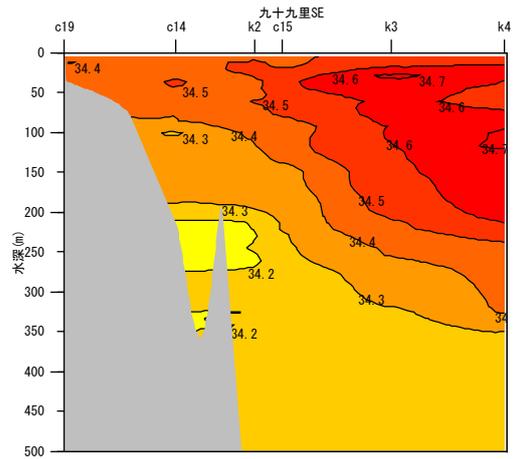
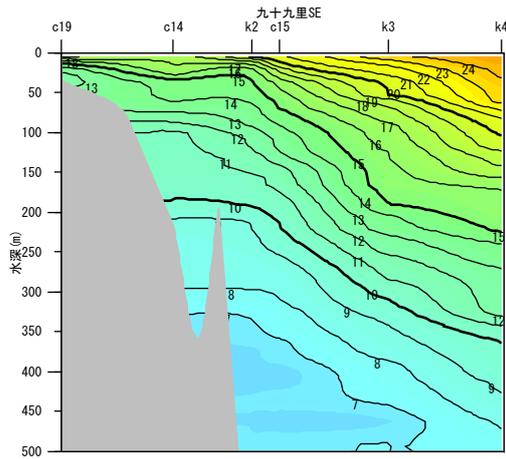
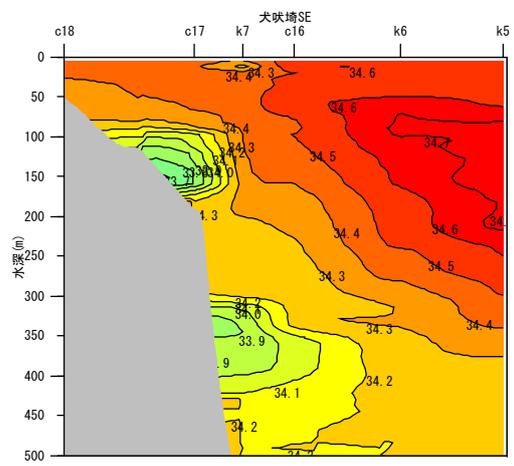
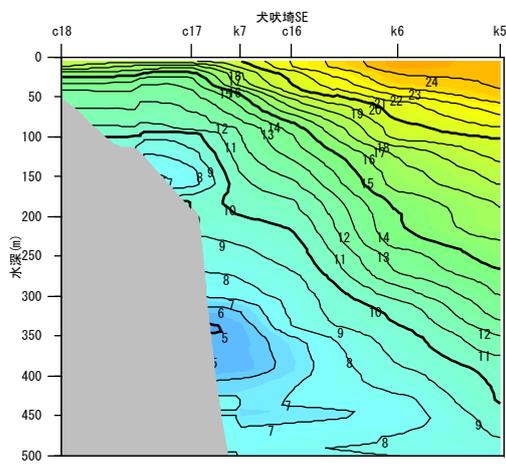


図6 水温鉛直分布
 図7 塩分鉛直分布
 いずれも上から犬吠埼，九十九里，太東岬，野島崎ライン（図1参照）

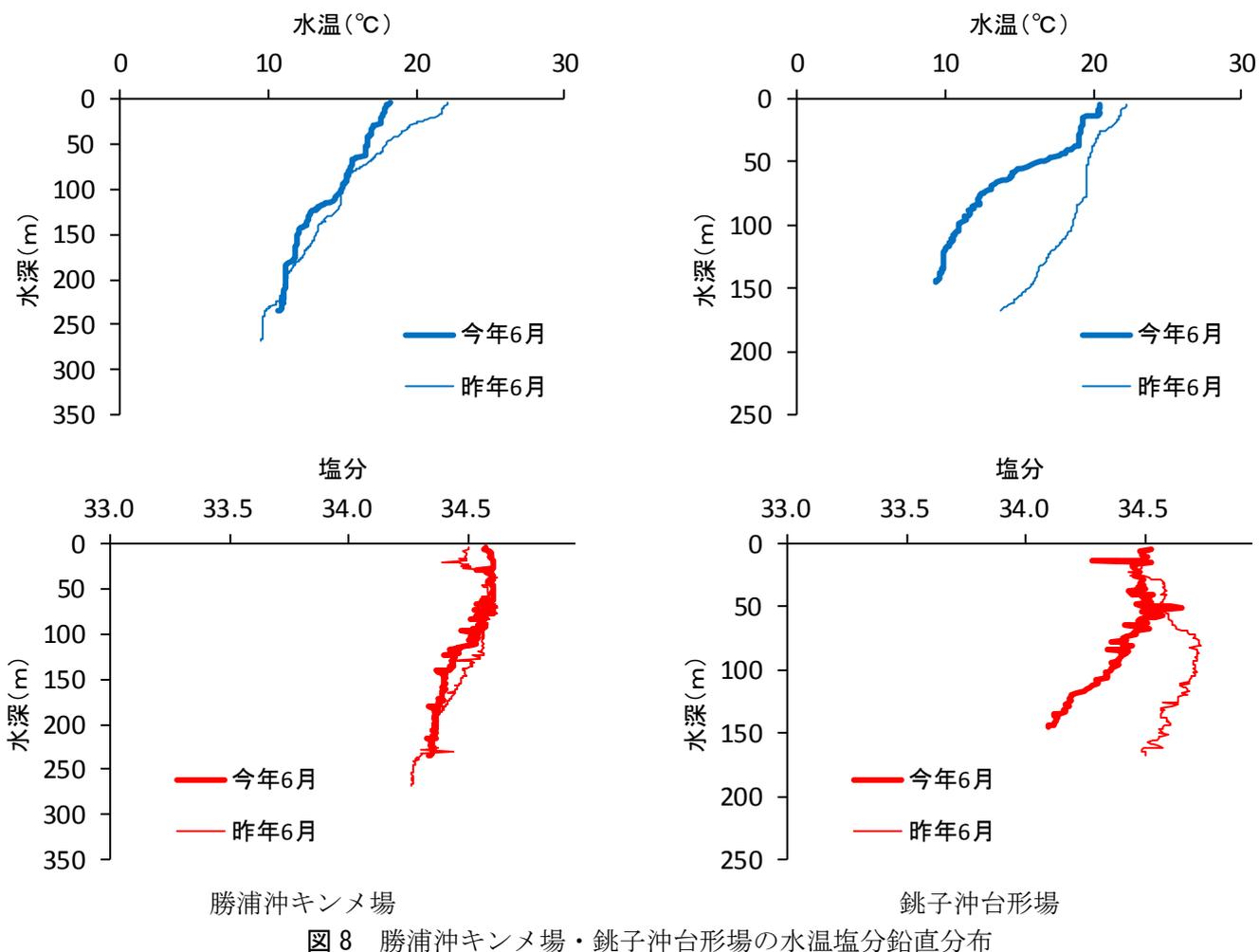


表1 海域別平均水温 (°C) と評価

海域	0m		50m		100m		200m	
銚子・九十九里	19.4	平年並	14.9	やや低め	11.9	やや低め	10.4	やや低め
外房	21.0	平年並	16.5	平年並	15.2	平年並	13.0	平年並

*水温評価点 (銚子・九十九里海域：C14~20 計7点)
(外房海域：C1,C3,C11,C13,C21,C22 計6点)

*沿岸水温評価の目安

きわめて高め	2.0 σ ~	
高め	1.3 σ ~ 2.0 σ	
やや高め	0.6 σ ~ 1.3 σ	
平年並み	0 ~ 0.6 σ	
平年並み	0 ~ -0.6 σ	
やや低め	-0.6 σ ~ -1.3 σ	
低め	-1.3 σ ~ -2.0 σ	
きわめて低め	-2.0 σ ~	(σ : 標準偏差)

<資料> 関東・東海海況速報 (図2 ; 6月3日分)